

住民として地方の政治を考えよう

神奈川県 公立中学校教諭

1 はじめに

この秋の時期を迎えると、授業の進度が気になる先生方も多いと思う。3年生が部活動を引退し、学校行事も一段落するとあとは「入試に向かって」、という雰囲気になってくる。このような中ではとかくレクチャー中心の授業になりがちなのではないだろうか。先生は授業を早く進めたいし、入試に備えて知識をつけさせなければならない。生徒も調べ学習や討論学習などをするよりも座っていたほうが楽だろうし、先生の話聞いて板書をノートに書いていると効率よく知識がついていくような感覚になる。果たしてそうだろうか。課題解決のために、あるいは討論の準備のために自分で調べたことやグループで学習したことは定着している。生徒の知識を定着させるためには、いかにして生徒を能動的にするかということではないだろうか。教科書を活用しつつ、活動を取り入れた学習授業案を考えてみた。

2 単元の計画（6時間）

本書は「活動型」の教科書であるという特徴を持っている。さまざまな学習で生徒の活動的な学習形態がとられている。

地方自治の学習財は身近なところに多い。したがってゴミ処理、介護保険制度、教育、

駅前の違法駐輪をどのようにしようかなど、さまざまな切り口が考えられ、それを単元の中心にすることも考えられる。また、市町村合併が話題になっている自治体ではこれを単元の中心にすえることもできるし、決着点として、学校であるいはクラスとして自治体に要望する授業展開をされた学校の実践例も耳にする。

地方自治の学習単元を考えたとき、

- シミュレーション的に
- 課題を与え、話し合いを中心に
- 徹底した調べ学習を中心に

などが考えられる。

しかし、前述のとおり、この時期になると私たち教師にも余裕がなくなってくるのも本音である。できるだけ身近な教材を与え、手間をかけてこの単元を扱いたいという思いと、授業の進度や学級の進路のことが気になりになるというジレンマが生じる。

そこで、今回は単元の最初と最後に活動的な場面をいれ、知識・理解の部分はワークシートを使うなどして、時間的に効率がよいように単元の計画をたててみた。

1 時間目

地方自治と民主政治

- ごみ処理場をどこにおくか話し合いをしてみよう

keyword：民主主義の学校・直接民主制

2 時間目

地方公共団体のしくみと仕事

○私たちの市のホームページをみてみよう
(または県のたよりなど)
keyword：地方議会・首長・条例

3 時間目

地方財政の現状と課題
○お金の使い道を調べてみよう
keyword：自主財源

4 時間目

地方自治の変化
○地方はどのように変化しているのか現在の様子を知らう
keyword：地方分権 市町村合併

5 時間目

地方自治と私たち
○私たちの意見や活動が反映されている状況を知っておこう
keyword：住民投票 オンブズマン制度

6 時間目

私たちの要望をまとめてみよう
○私たちの要望をK J法によって整理してみよう。

3. 「民主主義の学校」を理解するために話し合いを通して学習すること(1時間目)

「話し合い」というのは民主主義を体験するうえではたいへん有効な学習である。話し合いによってお互いの立場を理解し、利害関係を調整し、よりよいものをつくり出すことができる。これは社会科の授業の目的である「公民的資質」というものである。

教科書では、p.30～31の「マンションのルールができるまで」がこの学習であり、法教育とよばれている。

「地方自治は『民主主義の学校』といわれると覚えよう」というよりも、実際にどのようなことなのか疑似体験をしたほうが知識も定着する。そこで、教科書の資料事例をつかって、「ごみ処理場をどこにつくるか」という

テーマで話し合いを行う。

《進め方》

①場面の設定は次のようにする。

A 地区の状況

- 山林と農地が多くを占めている。
- 人口はすくない。
- 市街地から離れていて道路がせまい。

B 地区の状況

- 住宅地が多い。農地だったところにマンションが建ち始めた。
- 人口が急増している。
- 駅から離れているが道路が整備されている。

C 地区の状況

- 商店街がある。工場も多い。
- 人口は3つの地区のうち一番多い。
- 鉄道の駅がある。国道の交通量も多い。

町長が示した原案

A、B、C地区のごみ処理場は老朽化し、ダイオキシン発生の問題もあるので、B、C地区のごみ処理場を廃止し、A地区に新たに大きなごみ処理場を建設する。そのため今年の前算はかなりきびしいので、その他の施設や整備を進めることはかなりむずかしい。

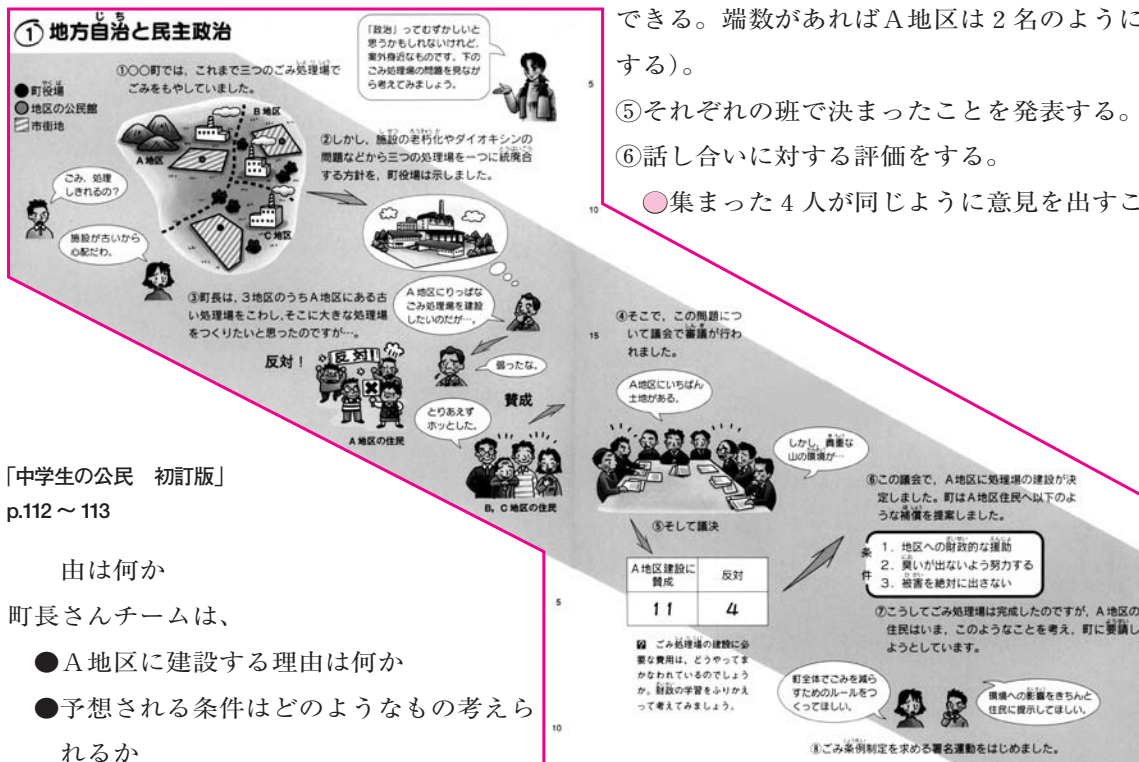
②チームをつくる

クラスを4つに(人数が多ければ8つまたは12に)分け、A地区チーム、B地区チーム、C地区チーム、町長さんチームを決める。

③チームで作戦会議をする

A～C地区チームは、

- 反対の理由は何か
- もし、自分の地区に建設するとしたらどのような条件を出すか
- 他の地区に建設したほうがよいという理



「中学生の公民 初訂版」
p.112 ~ 113

由は何か

町長さんチームは、

- A地区に建設する理由は何か
- 予想される条件はどのようなもの考えられるか
- 予算がきびしい中でどのように対応するかについて作戦をたてる。

条件については教科書に例示がしてあるのととりつきやすいかもしれない。その他、生徒が考えた条件は、

- 道路を拡張し、整備してほしい
- できるだけ自然をこわさないでほしい
- 温水プールをつくってほしい
- 現在ある焼却場につくりなおしてほしい
= あらたに開発をしない
- 遊園地をつくってほしい
- 広い公園をつくってほしい
- ごみを減らしてほしい
- ごみの分別を完璧にしてほしい
- 他地区のごみを運ぶ車は住宅地を走らない

などがあつた。
④ A地区1名、B地区1名、C地区1名と町長1名で話し合いのグループをつくり話し合

いをする（40人の学級なら10個のグループができる。端数があればA地区は2名のようにする）。

- ⑤それぞれの班で決まったことを発表する。
- ⑥話し合いに対する評価をする。

● 集まった4人が同じように意見を出すこ

とができたか。

- 誰か1人の意見だけが通るような話し合いだったか。
- 多数決のみで簡単に決めてないか。
- 生じている問題の解決を特定の人におしつけていないか。

「話し合い」によって、対立する利害関係が上手に調整できていて、当事者が納得していることが大切である。

4. 身近な資料を取り入れ、ワークシートをつかって整理をする（2～5時間目）

この授業では容易に手に入る資料とワークシートを用いて進めてゆく。

県や市町村の広報誌を活用することもあるが、なかなかタイムリーなことが載っていないこともある。また、県や市町村が子ども向けに統計資料などを発行している場合もある。今回は市町村のホームページを見ながら

進めていくことにする。生徒に検索させてもよいが、スカイメニュー等のソフトで先生機から生徒に示したい部分を一齐に配信すると効率が良い。

導入として〇〇県立・県営、あるいは〇〇市立・市営のつくものをあげて考える。つぎにホームページ等を使って自分たちが住む地方公共団体の組織図を見る。横浜市のような大きな組織だとわかりにくいところがあるので、教科書の図と照らし合わせてみたり、解説をしたりする必要がある。

全体として、自分たちが住んでいる自治体ではどのように歳出しているのか考えてみよう。

5. KJ法をつかって私たちの要望を整理する（6時間目）

学習の最後に自分たちが住む地域の問題点を探し、市への要望をまとめる。時間がかかるので、この単元を始める前に生徒には予告しておき、前時の一部をカードの記入にあてると余裕が持てる。

カードに記入（1人5枚程度）

- 市への要望を書く。

班をつくる（5～6人程度）

まとめごとにグループ化

- 記入したラベルを机の上にならべる
- 班で話し合っ、カードをまとめごとに分け、クリップでとめておく。
- まとめにはいらぬものは無理にいれない。

見出しをつける

- クリップでとめておいたカードのまとめ

に見出しをつける。

- カテゴリーの設け方は班にまかせる。

模造紙にラベルを配置する

- 共通点や相互の関連などを考えながら配置する。
- カードを貼り付け、見出しを記入する。

発表する

- 私たちの要望はどのようなものかを再認識する

生徒のふりかえりから

- 自分にとって高校入試が課題だからみんなもそうかと思っていたら、意外に老人や障害者についての要望が多かったのでおどろいた。
- グループ分けのとき、自分の思ったようにいかなかったが、班の人の意見を聞いて「なるほど」とも思った。
- おとなのマナーにはもっと気をつけてほしい。
- やっぱり学校にクーラーを入れてほしいと思った。
- 駅前の駐輪をなんとかしてほしい。
- ポイ捨て禁止条例があっても実際には機能していない。形ばかりの条例を決めても意味がない。
- (カードの)分類の仕方がいろいろあって、それを決めるのに時間がかかった。
- 分類の作業をするためには、他の人がわかりやすいように(カードに)書かないとダメだと思った。

6. 地方自治の単元を終えて

地方自治は学習材の宝庫である。隣の市と

⑥ まちの活性化を考えよう

まちの活性化プランナーになってみよう

これまで学習してきたことをふまえて、私たちのまちをよりよくするためには何が必要であるか、自分なりに考えてみましょう。

STEP 1

思いつくままに自由に！

テーマについて思いつくまま自由に話し合ってみましょう。考えられることはすべて出し合います。このとき、他人の意見を批判したり否定したりしてはいけません。一人ひとりが思い浮かんだことを自由に発言できるような雰囲気をつくりましょう。

さらに、それぞれのまちで課題となっていることをとりあげて、みんなでまちの活性化プランをつくり、提案してみましょう。

下の例を参考に、自分なりの案を考えましょう。学習してきた財政や人権などをふりかえってみるのもよいでしょう。



- ①まちの何が不満なのか。
 - ②そこをかえることで私以外に誰が困るのか。
- などのことに注意して話し合ってみましょう。また、ここでは以下のことは禁止です。
「意見がない」、「実現しない」、「効果がない」、「役に立たない」、「あたりまえのこと」…など。

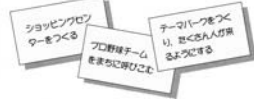


①生徒の作品

STEP 2

意見をカードに！

STEP1で出た意見を思いおこして、名刺の大きさのカードに1項目ずつ意見を書きましょう。1枚のカードに1項目を書くことが原則です。



STEP 3

同じ内容のカードはまとめて！

文で自分のカードを1枚ずつ読みあげ、ほかの人のカードと同じ内容のものは、重ねてテーブルの上に置きます。すべてのカードを読み終えるまで、この作業をくり返します。

STEP 4

タイトルカードを！

何枚かのグループになっているカードに、内容をひとまとめに表現するタイトルカードをつくり、ひとまとまりにします。STEP3とSTEP4をくり返し、内容がよく似たカードのグループが全体で数グループになるまで続けます。このとき、カードが1枚だけのグループがあってもかまいません。

STEP 5

内容を考慮して模造紙に

グループになったカードを、内容の関連性を考えて、模造紙の上に配置します。グループの位置がおおよそ決まったら、すべてのカードが読みとれるようにグループごとにカードをならべ、はりつけます。

STEP 6

関連性がひと目でわかる表現に

模造紙上のカードをグループごとに（関連する）対立する（原因や結果）など、関連性がひと目でわかるように、表現をくふうします。それによって、テーマの全体構造が浮かび上がってくるようにすることがポイントです。



②生徒の作品

STEP 7

市に提案を！

各グループごとに案をまとめて、インターネットや手紙などにまちに提案しましょう。



これは浜松市の市民の意見を集めるホームページです。このように、まとめた案をインターネットでまちに提案してみてもよいです。届先あてに手紙であったり私たちのまちづくり案を提案してみるのもよいでしょう。



③浜松市のホームページ

「中学生の公民 初訂版」p.124～125

合併するべきかどうか、新幹線の新駅をつくるかどうか、少し前の話題ならダムをつくるかどうか、原子力発電所をつくるかどうかなど、身近な問題を取り上げることができる。それを核に地方自治のしくみを理解していくという単元構成が可能である。とくに、現実的に市町村合併を行った、あるいは今後予定されている自治体の学校では最適な学習材だと思ふ。国民審査で罷免された裁判官はいないが、リコールでやめた首長はいる。地方自治の学習はかなり現実的な学習である。この教科書の国政の単元では「国会議員になってバリアフリー法をつくろう」ということで学習を展開するようになってきているが (p.126参照)、「条例をつくろう」というテーマでこの単元を構成することも可能だと思ふ。

少し長めではあるが、「中学生にも投票の

機会を」(p.120)や「保護活動が政治を動かした！」(p.122～123)の教材は中学生にも切実感を与えるものなのではないかと思ふ。

今回の単元の最後に行った「私たちの要望」は現状に「NO」という姿勢を持つことに視点を向けてみた。教科書では「まちの活性化」ということでかなり前向きなものとなっているが、あえてマイナス面に目を向けさせた。現状を批判させることは現状をよく見なければならぬ。生徒が普段は当たり前のように見ているものにもう一度よく見させることをねらってみた。クラスによって温度差はあるが、こちらが思ったよりも前向きな考え方で、正直いってほっとした部分はある。

2学期も半ばを過ぎると、私たちにも焦りが出てくるものだが、簡単な準備でも十分に活動的な学習ができるのではないかと思ふ。